Ⅰ－1

未来の創り手となるための力の育成
～仙台自分づくり教育の推進～

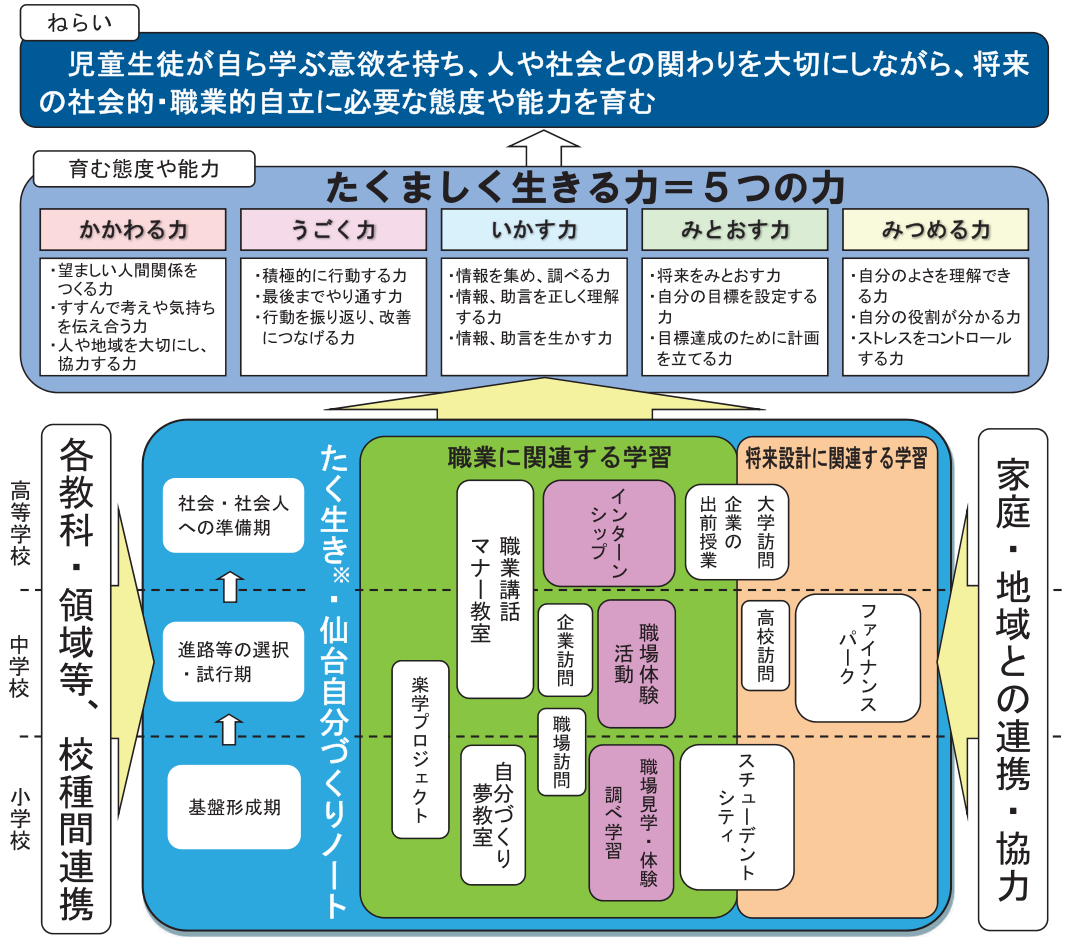
目標　仙台版キャリア教育「仙台自分づくり教育」を通して、児童生徒が自ら学ぶ意欲を持ち、人や社会との関わりを大切にしながら、将来の社会的・職業的自立に必要な態度や能力（たくましく生きる力）を育むことを目指す。

1　現状と課題

本市の学校においては、児童生徒の実態等に応じながら仙台自分づくり教育の推進が図られている。市生活・学習状況調査の結果から成果が見られる一方で、「夢や目標を持っている」「自分の将来を考えると楽しい気持ちになる」といった将来に関する意識については学年が進行するほど低くなっている。

こうした現状を受け、仙台自分づくり教育の推進に当たっては、児童生徒が学ぶことと将来とのつながりを見通しながら、将来の社会的・職業的自立に必要な態度や能力である「たくましく生きる力」を身に付けられるように、小・中・高等学校の発達段階を踏まえつつ、学校教育活動全体を通じて体系的・系統的に取り組む視点からの改善が大切である。また、児童生徒が社会とのつながりの中で主体的に自己の将来や生き方を考えられるように、家庭・地域との連携を図った学習活動の充実や仙台版キャリア・パスポート「仙台自分づくりノート」の効果的な活用を図る。

2　仙台自分づくり教育の全体像



※たく生き・・・「たくましく生きる力育成プログラム」

3　主な施策と学校での取組

⑴　主な施策

①　職場体験活動推進事業

中学校２年生を対象とした３～５日間の職場体験活動を通して、将来の社会的・職業的自立に必要な態度や能力を育てる。

②　キャリアアドバイザー派遣事業（自分づくり夢教室・職業講話）

地域の方や仙台で活躍している社会人講師の話を聞く機会を設け、夢や目標を持つ意味を学び、意欲的に学習に取り組もうとする態度を育てる。

③　仙台子ども体験プラザ事業

仙台子ども体験プラザでの学習プログラム「スチューデントシティ」「ファイナンスパーク」を実施する。

④　仙台自分づくり教育研究事業

仙台自分づくり教育研究会や調査研究部会を開催し、仙台自分づくり教育の成果の検証や今後の方向性について意見を聴取し、施策に生かす。「仙台自分づくり教育アワード」を開催するなど、地域総ぐるみで子どもたちを育てる環境を創る。

⑵　学校での取組

①　教育活動全体を通した体系的・系統的な自分づくり教育の推進

仙台自分づくり教育に関わる諸活動と各教科等における学習内容との関連を図り、小・中・高等学校を見通し発達段階に応じた活動を設定するなど、体系的・系統的な観点から年間指導計画を見直し・実践する。また、「たく生き」や「仙台自分づくりノート」については、育みたい力を身に付けさせる上で効果的な活用を検討し、年間指導計画へ位置付けるなど計画的に実践する。

②　「たくましく生きる力育成プログラム」（たく生き）

すべての学校教育活動の中で、５つの力（かかわる力、うごく力、いかす力、みとおす力、みつめる力）を意識して指導することを通して、たくましく生きる力の醸成を図る。

小学校における
仙台自分づくり夢教室

③　「働くこと」と「生きること」を題材とした体験活動

職場訪問や職場体験活動、インターンシップ、職業講話（夢教室含む）を通して、望ましい勤労観や職業観を育むとともに、自分の将来の在り方を考えさせる。

④　仙台子ども体験プラザ事業

公益社団法人ジュニア・アチーブメント日本が提供する体験型経済教育プログラムを、企業や保護者等のボランティアと連携して展開し、児童生徒に社会で自立する力を育む。

スチューデントシティでの
活動の様子

○　スチューデントシティ（小学校）

働く側（労働）と買う側（消費）の両方の体験を通して、児童が社会の仕組みや経済の働きを理解するとともに、働くことの意義や仕事を通じて支え合っていることを学ぶ。

○　ファイナンスパーク（中学校）

社会人として税金や日常生活費（食費、家賃、光熱水費等）の支出、保険の選択、旅行の計画、物品の購入など、１か月の生活設計を行うことを通じて、意思決定の在り方や自分を客観視して将来を見据え、今の自分に何が大切かを考える。

⑤　仙台版キャリア・パスポート「仙台自分づくりノート」の活用

仙台自分づくりノートは児童生徒が、自らの学習状況やキャリア形成を見通したり振り返ったりしながら、自身の変容や成長を自己評価するためのポートフォリオであり、小学校から高等学校まで引き継ぐものである。学校・家庭・地域における学習や仙台自分づくり教育に関わる活動をつなぎ、系統的にたくましく生きる力を育み、学びを将来につないでいくものである。

Ⅰ－２

ＩＣＴを活用した教育の推進
～協働的で一人ひとりに適切な学びの推進～

目標

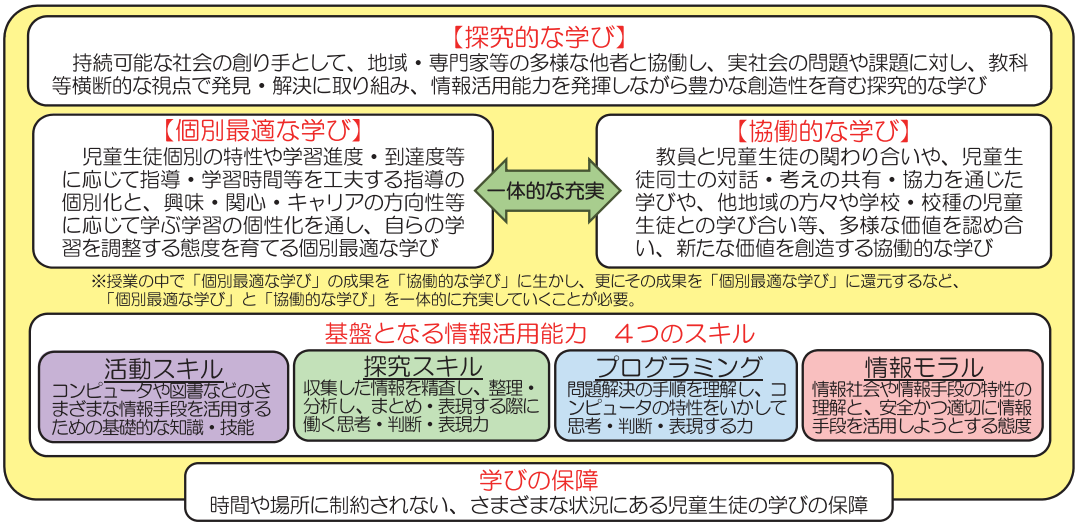
①　**「仙台市学校教育情報化推進計画」**に基づき、「これからの社会を、たくましくしなやかに生き抜く力」を育む。
②　ＩＣＴ環境を生かし、すべての学習の基盤となる情報活用能力の育成を推進する。
③　校務支援システムに加え、GIGAスクール構想で整備した教育用クラウドも生かして校務の情報化を推進し、効率的な校務処理と教育活動の改善を行う。

1　現状と課題

これまでに、国のＧＩＧＡスクール構想に対応した、市立学校の児童生徒１人１台端末の整備や校内通信環境整備等を進めてきた。教育の情報化に関する現状や課題について整理し、策定した「仙台市学校教育情報化推進計画」に基づき、以下に示す４つの基本方針をもとに、子どもたちが「これからの社会を、たくましくしなやかに生き抜く力」を育んでいくものとする。

基本方針１	児童生徒が、ＩＣＴを適切に使いこなし、生涯学び続けるための資質・能力の育成
基本方針２	教員のＩＣＴ活用指導力を高めるための支援体制の充実
基本方針３	ＩＣＴを活用するための環境整備
基本方針４	学校情報化の推進とＩＣＴ活用の推進体制構築

2　ＧＩＧＡスクール構想下での情報活用能力育成の基本的な考え方



3　主な施策と学校での取組

(1)　主な施策

①　ＩＣＴ支援員の継続配置。ネットワーク環境の強化。教育ダッシュボードの導入等。
②　デジタルドリルや授業支援ソフトウェアの活用支援。
③　校務支援システムや教育用クラウドの活用による校務の効率化の推進。
④　ＳＴＥＡＭ Ｌａｂ実証事業による今後の学校情報機器の環境のあり方に関する研究と実践事例の創出。

(2)　学校での取組

①　情報活用能力の年間指導計画を更新し、ＩＣＴの日常的な活用による授業改善および児童生徒の１人１台端末の活用を充実させ、情報活用能力（情報モラルを含む）の育成を図る。
②　多様な子どもたちに応じたＩＣＴを活用した学習支援を行う。
③　校務支援システムや教育用クラウドを積極的に活用した効率的な校務処理の推進を図る。
④　１人１台端末の活用目標（児童生徒）は以下のとおり（授業以外の学習場面での活用も含む）。

【小　学　校】低学年：１日に１～３回程度　中学年：１日に２回以上　高学年：１日に３回以上
【中 学 校 等】全学年：１日に３回以上
【高等学校等】学校ごとに設定
※特別支援学校は、実情に応じて活用を進めていく。